

公募研究 A01 (課題番号: 08205204・09202206)

沖縄における地方史料の情報化

研究代表者: 新城 敏男・名城大学・国際学部・教授

1. 研究項目: A01 琉球・沖縄の政治と社会
2. 研究課題名: 沖縄における地方史料の情報化 (課題番号: 08205204・09202206)
3. 研究期間: 平成8～9年度 (1996～1997)
4. 交付研究費: 平成8年度 1,800千円
平成9年度 1,800千円 合計 3,600千円
5. 研究組織(氏名: 所属機関・部局・職)
(研究代表者) 新城 敏男: 名城大学・国際学部・教授
(研究分担者) 上江洲 均: 名城大学・国際学部・教授
(研究分担者) 中村 誠司: 名城大学・国際学部・助教授

6. 研究目的

本研究は、重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」の研究項目「琉球・沖縄の政治と社会」に関する課題である。本研究の基本的な目的は、琉球・沖縄の歴史、とりわけ王府支配下の村々、さらには家の問題、人々の生活実態の理解を深め、沖縄の地域の歴史像を豊かにすることにある。その基礎作業として、沖縄の市町村・字・家レベルで地方(じかた)史料の残存状況を調査し、沖縄における地方史料の所在目録データベースの基盤をつくることを課題とした。それには、まず、市町村史や各種資料調査報告書などの刊行資料から情報を収集整理し、また各市町村史編集室や博物館等で収集されている未刊情報についても調査を行なう。第2は、可能な限り新しい地方史料を発掘し情報化する。第3に、史料の保存と公開利用に向けて、主な地方史料のマイクロ撮影を行なう。なお、既刊資料を中心にした地方史料のテキストファイル作成は、今後の課題とし、今回は出典情報を明記することにとどめた。

沖縄県は、他地域に比べて相対的に古文書が少ない。もっとも壊滅的な打撃を受けたのは沖縄戦での被害であった。こうした状況のなかで、沖縄県教育委員会では、文化庁の国庫補助を得て、昭和48年以来種々の古文書調査を行ない、その成果を目録として刊行してきた。しかし、それは全琉・各地域をカバーするには至っていない。

一方、各市町村史編集室が、それぞれの地域で戦火をくぐりぬけてきた史資料、特に地方(じかた)文書の発掘に力を注いできた。沖縄県地域史協議会は、沖縄各地の地域史編集関係者相互の情報と資料の交流をはかり、史資料の発掘・収集を推進し、市町村史等の地域史づくりの発展と地域文化の振興に寄与することを目的に、1978年11月に設立された。しかし、各市町村史が発掘・収集した史資料は、全体としてまだ情報化されていない。その共通基盤づくりが、本研究のめざすところである。

7. 研究経過

平成8年度は、まず、沖縄における市町村史編集室・担当者が参加・構成する沖縄県地域史協議会と密接な連絡をつくることから着手した。平成8年5月に、沖縄県地域史協議会の運営委員と本調査研究の課題と方法について研究会を持った。それをふまえて、同協議会の年次総会で本研究の概要を報告し、協力方を依頼した。地域調査は、沖縄本島中部の各市町村史編集室での史料収集状況調査から始めた(同年8月~)。既刊情報以外の地方史料情報を得ることが目的であったが、各市町村史編集室において史料目録整備が十分ではなかった。次に、県内で地方史料が豊富に伝存され、また未整理・未公開の史料が多い石垣市の史料調査に取り組んだ(平成8年9月、12月、平成9年2月)。石垣市史編集室、石垣市立八重山博物館他関係機関で調査を行なった。石垣市史編集室および八重山博物館収蔵史料に加えて喜舎場英勝家文書など、新たに確認できた史料群が多い。沖縄本島北部については、国頭村奥区史料調査(平成8年8月、平成9年3月)および名護市史編さん室収集史料調査(平成8年10月、平成9年3月)を実施した。さらに、未整理であった久米島の与世永家文書の調査と整理を行ない(平成9年2~3月)、量的・内容的に新たな史料発見があった。以上の史料調査・整理と並行して、県内の既刊各市町村史から地方史料情報を目録化する作業を進めた。平成8年度に「沖縄県地方史料目録データベース」として整理・入力したのは約3000点にのぼる。なお、石垣市の石垣家文書の一部についてマイクロ撮影した。

平成9年度は、前年度から引き継ぎ課題である喜舎場英勝家文書および与世永家文書の「目録データベース」の整理・入力を進める一方、石垣市史料補足調査(平成9年11月)を行なった。久米島与世永家文書については、漢籍の専門家の参加も得て研究会を持つとともに、詳細な史料整理・評価を行なうことができた。地方史料群の調査・整理は、沖縄本島北部の今帰仁村について集中的に実施した(今帰仁村歴史文化センター収蔵史料/平成9年11月~平成10年2月)。既刊資料であるが、膨大かつ貴重な地方史料群として、沖縄本島北部の本部町および宮古の多良間村について目録情報化を行なった。なお、マイクロ撮影は、石垣市の喜舎場英勝家文書の一部について実施した。

以上の結果、平成8~9年度において「沖縄県地方史料目録データベース」として整理・入力したのは約5000点にのぼる。

8. 研究成果の概要

「沖縄県地方史料目録データベース」作成は、私たちの班で作成した「史料カード」をもとに、可能な限り原史料に当たって、綴文書も1点1点史料情報を整理した。すでに目録が作成されている場合は、「史料カード」に必要な情報を転記した。しかし、これまで各市町村市編集室等における史料目録の作成整備状況は十分ではなく、目録情報をどう設定するかは今後の大きな課題である。

目録データベースの入力作業は、本プロジェクトでこれまで作成されたシステムに合わせるため、

「桐」(管理工学研究所)で行なった。今回入力できた地方史料の多くは、これまで半公開ないし新たに確認されたものである。以下、調査し整理・入力した各地域の主な史料群について解説する。

<八重山>

石垣市<1809点>

石垣市立八重山博物館資料<124点>

石垣市では、これまで石垣市立八重山博物館が地方史料の収集と保存を担ってきており、膨大な量に達している。史料の本格的な整理はこれからの課題である。台帳に整理された一部を目録化した。

石垣市管内明治35年調整図面及び石垣町・大浜村時代調整図面目録(石垣市史編集室作成)<438点>

明治35年の「土地整理」に伴って作成された地籍図(1200分の1図が中心)、石垣市役所税務課が所蔵していた旧図面が石垣市史編集室に移管された。旧石垣町管内231枚、旧大浜町管内184枚、計415枚。すべて裏打ち修復済み。明治35年の調整図と戦前の町村時代(時期は特定していない)の調整図。標記の目録をもとに、法量情報を加えてデータベース入力を行なう。

石垣豊川家文書(石垣市史編集室作成)<642点>

豊川家は長興姓の第五世からの小宗である。代々役人を務め、九世善庸は大浜間切の頭職、十一世善佐は大正3年に竹富村長、同5年には石垣村長に就任した。豊川家文書は以前から14点は知られていたが、今回の石垣市史編集室の調査で695点の文書類が確認された。八重山の近代を明らかにしていく上で、村政・貢租・土地整理のみならず、当時の士族の生活を考えていくためにも貴重な史料群である。本文書はマイクロ撮影済である。

石垣喜舎場英勝家文書<242点>

喜舎場英勝家文書は以前から知られていたが、全体が把握されるのは今回が初めてである。文書と漢籍に分けると、文書は203点である。当家は屋号をホーンドウヌズ(大浜殿内)といい、最後の大浜間切の頭職を務めた家である。

石垣石垣家文書<363点>

石垣家文書は以前から知られており、県の調査目録(総点数79点)もあるが、『石垣市史』の編集段階で新たに105点が見つかった。当家は4人の頭職を輩出し、庭園は国の名勝に指定されている。『石垣市史』では、文書を法令等・村政等・土地・貢租・産業・交通・生活・文化に分類して収録している。紙背・表紙裏文書もできるかぎり収められており、現段階での全体像である。石垣家文書の内容は多岐にわたっており、士族層としての生活のあり方や役人としての働きも知ることのできる文書群である。

竹富町<391点>

竹富島喜宝院蒐集館文書<391点>

これらの文書は故上勢頭亨氏が蒐集されたもので、竹富島の喜宝院に所蔵されている。目録は得能寿美氏が作成したもので、第1部人頭税領収証綴・間切島会二関スル書類、第2部契約及金銭物品二関スル諸証書・報告綴、第3部村日記1、第4部村日記2と明治25年沖縄県告示報告綴からなる。なお、まだ目録化されていないが、波照間村事務所の明治35~37年の島庁通達綴、竹富村事務所の明治37年以降の村日記がある。

<宮古>

平良市 < 35 点 >

宮古本永家文書 < 35 点 >

本文書は、沖縄国際大学によってマイクロ撮影された。

多良間村 < 537 点 >

多良間村には近世から近代にかけての地方史料がきわめて豊富に伝存されており、その多くが『多良間村史』に翻刻・収録されている。地方史料として特記されるのは、系図家譜、与世山親方農務帳、辞令書、多良間往復文書控、多良間鍛冶記録、塩川村丑年惣頭帳、仲筋村子年惣頭帳、宮古島往復文書控、漂流記関係文書などで、地方史料として 537 点整理入力した。

< 久米島 >

久米島与世永家文書 < 396 点 >

久米島の地方文書については、沖縄県立博物館が中心となって上江洲家文書について整理作業が進められている(約 1700 点整理目録入力済み)。与世永家文書は、沖縄県教育委員会による調査(35 点)を含めて 396 点。その内訳は 7 割強が近世文書(300 点前後)で、近代文書は 100 点前後。近世文書は、近世久米島の土地関係文書(里積記・名寄帳・取納帳・仕明請地帳)や杣山関係文書(「久米具志川間切杣山職務帳」・杣山次渡帳) 農耕関係文書(農務帳・農書) 風水関係文書(風水書・墓風水判断・家屋風水判断) 日撰関係文書(大雑書・玉匣記) 易関係文書(易書・吉凶判断) 医学関係文書(医学書・漢方処方書) 地図類(航路図・里程図・風水判断図) その他の文書(祈願文・書簡・案文) などのように多岐にわたる内容で、地方の家文書では他に類をみないものである。近代文書は、納税領収書や徴税伝達書のような行政文書や土地や金品などの証文、辞令書(特定個人)や茶毘帳、さらに西銘小学校文書(明治 20 年代)もみられる。

与世永家所蔵の漢籍・準漢籍(刊本・抄本)の特徴は、概ね次のように要約できよう。四書五経類と易占・日撰・風水類とが漢籍収集の二つの柱となっており、この点は琉球全体の士族の家文書と共通する。久米島には士族籍が与えられなかったが、実質的には士族と同様の、質・量ともより高度な知識の集積があったことに注目したい。木匣の蓋の裏面に、「医方書入箱」と題しておよそ 20 点に及び日本・中国の医学・本草関係の書名が墨書されている。現在ではそのうち 5、6 点の刊本・抄本が残存しているだけだが、沖縄県内ではこれほどまとまった医書の収集は初見である。沖縄県内では初出の江戸中期の儒者の著述が 2 点ほど含まれており、琉球における儒学思想の受容を理解するための貴重な手がかりとなる。以上、与世永家の漢籍・準漢籍については、その収集の時期と経路の解明を待って、さらに詳しい分析を進めたい。

< 沖縄本島北部 >

名護市 < 583 点 >

名護市については、名護市史編さん室が中心となって以前から地方史料の調査確認作業に取り組まれてきた。字・家単位で目録カードが作成されており、以下は地区別に整理したものである。

久志地区 < 143 点 >

久志区文書 < 36 点 > / 久志棚原家文書 < 5 点 > / 辺野古各家文書 < 86 点 > / 嘉陽山口家文書 < 18 点 >

名護地区 < 2 点 >

城具志堅家文書 < 2 点 >

屋部地区 < 103 点 >

宇茂佐岸本喜順家文書 < 1 点 > / 安和宮城家文書 < 1 点 > / 安和仲村家文書 < 1 点 > / 安和宮城志賀家文書 < 5 点 > / 安和長山豊隆家文書 < 1 点 > / 安和比嘉正一家文書 < 26 点 > / 安和区文書 < 1 点 > / 中山安里家文書 < 1 点 > / 屋部久護家文書 < 14 点 > / 屋部ハーヌパタ文書 < 13 点 > / 屋部岸本光雄家文書 < 12 点 > / 屋部チュンナーヤー文書 < 6 点 > / 屋部岸本すま子家文書 < 4 点 > / 屋部耕作屋文書 < 4 点 > / 屋部ハナナカヤ文書 < 5 点 > / 屋部ギーブヤー文書 < 3 点 > / 屋部渡波屋関係文書 < 5 点 >

羽地地区 < 290 点 >

琉球大学付属図書館島袋源七文庫文書(源河関係) / < 1 点 > 源河宮城貞助家文書 < 20 点 > / 源河清水岩夫家文書 < 29 点 > / 源河金城徳清家文書 < 5 点 > / 源河宮城双元家文書 < 45 点 > / 源河松田家文書 < 9 点 > / 琉球大学付属図書館島袋源七文庫文書(真喜屋関係) / < 9 点 > 小川徹氏確認文書(真喜屋・仲尾次関係) < 10 点 > / 仲尾次喜納家文書 < 5 点 > / 仲尾次宮城良雄家文書 < 21 点 > / 仲尾次松田源栄家文書 < 2 点 > / 沖縄県立図書館比嘉春潮文庫文書(仲尾次関係) < 1 点 > / 伊差川山里家文書 < 16 点 > / 伊差川座喜味家文書 < 20 点 > / 田井等区文書 < 3 点 > / 田井等系数新治家文書 < 10 点 > / 田井等久場川家文書 < 2 点 > / 仲尾金城家文書 < 23 点 > / 我部祖河区文書 < 1 点 > / 我部祖河仲ノ屋文書(我部祖河文書) < 33 点 > / 島尻博物館所蔵文書・羽地間切針竿帳 < 1 点 > / 国立歴史民族博物館所蔵文書・羽地間切針竿帳 < 2 点 > / 琉球大学付属図書館島袋源七文庫文書(羽地間切関係) < 3 点 > / 名護市羽地支所所蔵文書 / 名護市市民課所蔵文書(羽地旧戸籍関係) / 名護博物館所蔵・宮城真治収集文書(羽地関係) < 12 点 > / 名護博物館所蔵・羽地間切村旧小字集成図資料 / ハワイ大学マイクログ資料(羽地関係) < 2 点 > / 京都大学琉球資料(羽地関係) < 3 点 >

屋我地地区 < 43 点 >

饒平名仲宗根遺影文書 < 2 点 > / 済井出区文書 < 1 点 > / 運天原小浜上文書 < 2 点 > / 運天原上地完進家文書 < 8 点 > / 運天原花城清典家文書 < 30 点 >

本部町 < 444 点 >

本部町史の調査・編集過程で収集・翻刻された地方史料は 444 点にのぼる。そのうち主な史料群は、辺名地仲村家文書(古琉球辞令書)、具志堅仲里家文書(明治前期辞令書)、伊豆味饒平名家文書(土地譲渡証文・借用証文・藍関係文書)および崎本部金城家文書(シカマ年賦切証文・借用証文・土地譲渡証文)などである。

国頭村 < 281 点 >

国頭村奥区資料 < 281 点 >

国頭村字奥の公民館には、戦後の共同店の帳簿資料(177 点)を中心に、明治期の土地整理関係、猪垣管理台帳、土地台帳、旧戸籍簿、字常会議事録等の近代・戦後資料が保管されている。

大宜味村 < 29 点 >

『大宜味村史』に翻刻・収録された地方史料は 29 点である。

東村 < 7 点 >

『東村史』には 47 点の史料が収録されている。

伊是名村 < 41 点 >

『伊是名村史』には銘苅家文書をはじめ 41 点が翻刻・収録されている。

< 沖縄本島中部 >

宜野湾市 < 17 点 >

『宜野湾市史』に翻刻・収録された地方史料は 17 点である。

北谷町 < 15 点 >

『北谷町史』には 15 点の地方史料が収録されている。

西原町 < 9 点 >

『西原町史』には 9 点の地方史料が収録されている。